鵠沼海岸ビーチクリーンアップ

小田島 厚（東船大 N15）

桜が終わって、ハナミズキやツツジが咲き出した今、季節だけは着実かつ正確に移ろって我々の目を癒してくれている。４月20日（日）恒例の鵠沼海岸ビーチクリーニングが例年より多少肌寒く感じるが予定通り挙行された。天気は下り坂で３月の気温に逆戻りしている最中だったが、当日は雲の中から太陽が少しだけ顔を覗いてくれるという幸運に恵まれ、クリーニング日和の下、総勢151名、我が海洋会グループは12名の参加者で無事予定通り完遂された。

総勢151名という人数はいつもの約半数で、小生がこれまで参加した中で最低参加人数である。その理由はいろいろあるだろうが、先ずは①各地方自治体の美化運動が活発になったこと②CSR（企業の社会的責任）が浸透してきたことが主因であろう。

神戸・淡路大震災を皮切りに東日本大震災、竜巻・豪雨・豪雪による大災害等々、近年何故か想定外の大災害が多発し、その度にボランティアが活躍し、その援助効果が注目され始め、ボランティア活動の存在価値が日の目を浴びるようになってきた。今では国内だけではなく海外でも活躍している。各自治体が住みよく、綺麗で旅行客が集まる町づくり政策を企画するのは当然の事である。我々 JEANのクリーニング現場の直ぐ隣でも藤沢市の自治体であろうか、別の大きな集団がビーチクリーニングをやっていた。近所のボランティア人間が自治体の方で活動すればJEAN（Japan Environmental Action Network）の一般参加者は少なくなるのは自明の理である。ボランティア活動をする者にとっては、目的が達成されれば人数の多少に関係なく無上の法悦である。

また、近年CSRがWIN・WINの観点から企業もCSR施策に向け積極的にその強化を図っている。これまで我々 JEANの仲間にサッポロビールの法人会員が大きな組織として参画していた。一

鵠沼海岸にて

参加者（敬称略）

橋本　進　戸苅　清　北沢　昌永
早津　義彦　内田　直行　眞那子金三
角田　昌男　小暮　文悟　辻村　京子
平山　瑞紗（大学生）　横塚　峻介（大学生）
小田島　厚

昨年前から該社はJEANを脱退、その後の該社は一部個人が小集団で参加している。人数は我が海洋会に少し毛が生えたくらいか。

話を本題に戻そう。人数が少ないと何となく寂しく寂寥感が拭え切れないところであるが、逆に海洋会の海にマッチしたライトブルーのユニホームがひときわ目立ち、海に生きる会員としての存在感を充分にアピールできたのではないか。もちろん以前から、我々海洋会の存在は、事務局員はじめ参加者に充分浸透してはいたが。

今回も海洋大学の学生が男女各１名、計２名参加した。学生の参加も定番になった事は嬉しいことである。若者は積極的に参加し、日本の新しい近未来の流れを構築して欲しい。終了後、近くの公園で学生と我々有志とで昼食を兼ねた懇談を企画、大学あるいは海運の歴史についての大先輩の話を耳にする偶然のチャンスに接し、ご満悦の様子だった。また、参加した大学生には、就活用に海洋会会長名の立派なボランティア活動奉仕証明書を贈呈している。

人数が少なくなった事に関し、先に述べたようにボランティア活動としては別段異論はないが、若干苦言を呈すると、外国から漂流した大量のゴミの溜まり場になっている海岸が日本のあちこちに散在している。特に日本海側である。JEANの指定地鵠沼海岸は、近年のマナー向上でゴミが少なく人数が多くてはボランティア効果も薄れてしまう。

毎回、同じ場所で同じ行動の繰り返しでは疑問を感ずる人も出てくるであろう。質的方針を刷新する必要があろう。2020年には東京でオリンピックが開催される。我々は常に繋がりのある人間関係、住みよい社会環境を追求しなければならない。愚民社会から早く脱出しようではないか。